

令和7年度 地域情報化アドバイザープロフィール

ふりがな	ふるや ひろし	
氏名	古屋 弘	
所属・役職	(株)大林組技術研究所 上級主席技師 buildingSMART JAPAN 理事	
活動拠点	東京都（本社および技術研究所）	
略歴	<p>1983年(株)大林組入社 地盤関連の技術支援、現場（地下鉄）を経て、1997年より本社土木技術本部勤務。2010年より技術研究所勤務。 現在に至る。</p> <p>前（公社）地盤工学会副会長。 技術士（建設部門）、工学博士、熊本大学客員教授、ISARC ボードメンバー buildingSMART JAPAN 理事</p>	
地域情報化の専門分野・技術	<p>建設分野におけるICTの活用に関する技術開発 ネットワークを含む通信技術 建設ロボット（遠隔操縦／無人化／自律運転など） GNSSの活用、防災ハザード</p>	
専門分野	オープンデータ AI活用 生成AI活用 計画策定支援（地域情報化計画・官民データ計画・自治体DX推進計画等） ネットワークインフラ（Wi-Fi／LPWA／光ネットワーク） 5G 防災 スマートシティ	
自治体向けメッセージ	<p>単純なコンパクトシティの推進には反対です。 少子化、高齢化に向けた社会インフラの見直しは必須ですが、暮らしやすさを基本として、それを実現するためのICT導入をまず考える必要があります。</p>	
関連サイト	https://www.obayashi.co.jp/	
地域情報化に関する実績	これまでの経験業務・研究活動	地盤関連の技術支援、現場（地下鉄）を経て、1997年よりGNSS・データベースを用いた施工管理システム、1998年より加速度応答を用いたリアルタイム施工管理技術を開発。 ICTの建設分野への適用、および建設ロボットの開発に従事。 2010年より技術研究所勤務。3Dプロダクトモデルの活用の研究とともに建設ロボットおよびICTの活用と現場実装に関する研究開発に従事。 GNSSを用いた施工管理システム、加速度センサを用いた締固め管理システム、ダムコンクリート締固め管理システム等を開発 2001年国土技術開発賞 優秀賞、2009年・2015年ダム工学会技術開発賞、2018年土木学会技術開発賞などを受賞

	これまでに関与した地域情報化に関するプロジェクト	社会インフラ建設における品質管理の合理化と高度化を目的とし、ネットワーク（クラウドサービスも含む）を用いた施工管理システムを開発し実工事に多数適用。1999年より上記のシステムを構築導入後、2017年より5G実証実験に参加。重機の遠隔操縦の高度化を実現。
--	--------------------------	---